

# 住用川水系河川整備基本方針

平成 26 年 12 月

鹿 児 島 県

# 住用川水系河川整備基本方針（案）

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域及び河川の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1) 洪水，津波，高潮等による災害の発生の防止 または軽減に関する事項	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	3
3) 河川の維持管理に関する事項	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	4
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に 係る川幅に関する事項	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	5
(参考図)	
住用川水系概要図	6

# 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 流域及び河川の概要

住用川<sup>すみようがわ</sup>は、沖縄県と鹿児島県のほぼ中間の洋上に浮かぶ奄美大島<sup>あまみおおしま</sup>の中央部に位置し、その源を大島郡大和村の小川岳<sup>やまと おご</sup>付近に発し、スタル俣川<sup>また ひやかわ</sup>、冷川<sup>ひがし</sup>を合わせて東シナ海<sup>かい</sup>に注ぐ、流域面積 48.5km<sup>2</sup>、幹川流路延長 15.5km の二級河川である。

住用川流域付近の気温は、年平均 21.8℃で、冬季の 1、2 月でも月平均 14℃以上である。年平均降雨量は概ね 2,800mm 程度であり、全国平均の約 1.7 倍となっている。

流域の地質は、西仲間<sup>にしななかま</sup>付近に北西から南東にかけて断層がみられる。また、これと交差するように北から南にかけても断層があり、この断層より上流の後背地には中生代の千板岩<sup>せんばんがん</sup>及び頁岩層<sup>けつがん</sup>が分布し、これより下流の後背地にも中生代の砂岩・頁岩互層、頁岩等が分布している。また河川沿いには粘土・砂・礫層がみられる。

流域の地形は、上流域は小～中起伏山地を呈しており、中・下流域は谷底平野となっている。また河口域にはマングローブが繁茂する湿地帯が広がっている。流域の土地利用状況は、全体の 98%が山地で占められており、耕地は 1.5%、宅地は 0.5%を占める。山林の大半はスタジイ群集が広く分布している。

住用川流域の奄美市住用町は、名瀬の南部、奄美大島の中央部に位置しており、島内でも比較的流域面積が大きな河川を有している水が豊かな町である。住用川の河口部は日本国内で二番目に大きいマングローブが群生し、国立公園特別保護地区にも指定されており、奄美大島における観光の名所となっている。

住用川の治水・利水・自然環境および河川利用状況の概要は以下に示すとおりである。

### ① 治水の概要

奄美大島は台風の常襲地帯であり、過去幾度となく大きな災害が発生している。住用川では、昭和 29 年度から昭和 38 年度の復興事業及び昭和 39 年度から昭和 48 年度の奄美振興事業により護岸工事が実施され、昭和 49 年度から住用川局部改良工事により河口の石原<sup>いしはら</sup>地区から上流の西仲間地区の 1,900m 区間並びに冷川の 50m 区間の河川改修工事を実施し昭和 60 年に完成している。

しかしながら、平成 22 年 10 月 20 日に時間雨量 130 mm以上が 2 時間継続、連続雨量 968 mmの豪雨があり、床上浸水 87 戸、床下浸水 10 戸に及ぶ甚大な被害

を受け、平成 24 年度から総合流域防災事業として河川改修を実施している。

## ② 利水の概要

現在、住用川の水利用は上流の発電ダムである新住用川ダム<sup>しんすみようがわ</sup>において発電用水として水利用が行われているが、農業用水等による利用は行われていない。

## ③ 自然環境および河川利用状況

奄美大島は、独特の地史を有し、極めて多様で固有性の高い亜熱帯性生態系を有し、多数の希少種の生息・生育地となっている。

上流部は、自然植生が残っている神屋原生林<sup>かみやげんせいりん</sup>が広がっており、また世界中で奄美大島のみ<sup>のみ</sup>に自生しているアマミセイシカ、アマミスミレ、アマミデンダ等の希少な溪流沿い植物や国の特別天然記念物に指定されているアマミノクロウサギ、絶滅が危惧されるオオトラツグミ、オーストンオオアカゲラ、アマミヤマシギ、ルリカケス、アマミイシカワガエル、キバラヨシノボリ、リュウキウサワガニ、サカモトサワガニ、アマミミナミサワガニなど、多種多様な動植物種の生息地となっている。また、流域にはハネナガチョウトンボの国内で唯一の生息地も存在する。

中流部は、山間部から流れ出た流路が田畑の間を緩やかに蛇行し、瀬・淵が連続している区間である。この区間には、環境省レッドリストに絶滅危惧 I A 類として掲載されているリュウキュウアユ（鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例における指定希少野生動植物指定）の産卵場所が確認されているほか、国内外来種であるコイが確認されている。

下流部の河口域にはマングローブ群落が広がり奄美群島国定公園の特別保護地区に指定され、希少ハゼ科魚類が多種生息するなど、川と海を移動する魚類や甲殻類の成育場となっており、環境省の「日本の重要湿地 500」に選定されている。

このように住用川の流域には、世界的にも非常に高い生物多様性が維持されている。

また、河口部には黒潮の森マングローブパークがあり、カヌー等の河川利用が盛んであるほか、アネク(筥)によるモクズガニ捕りが実施されている。

水質に関しては、住用川は環境基準の類型指定なされていないが、BOD 値は A A 類型 (BOD 1.0mg/L 以下) 相当であり、良好な水質が確保されていると考えられる。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

住用川水系では、未曾有の被害をもたらした平成22年10月の洪水氾濫等による災害があったことから貴重な生命・財産を守り、地域住民が安心して暮らせるよう河川等の整備を図る。

また、溪流沿い植物やマングローブ群落やリュウキュウアユ等の希少な種が生息・生育・繁殖しており、特異な生態系が形成されている。このような自然豊かな河川環境を保全・継承するとともに、流域の歴史、文化を踏まえ、魅力ある川づくりを目指すため、関係機関や地域住民との連携を強化し、河川の多様性を意識しつつ治水・利水・環境に関わる施策を総合的に展開する。

このような考え方のもと、河川整備等の現状や河川環境の保全等を考慮し、また、関連地域の社会・経済情勢の発展に即応できるよう、河口から一貫した計画に基づき、河川の総合的な保全と利用を図る。

### 1) 洪水、津波、高潮等による災害の発生防止または軽減に関する事項

洪水、津波、高潮等による災害の発生防止または軽減に関しては、流域内の資産状況・土地利用状況の動向を勘案し、住用川においては年超過確率1/30の規模の洪水を安全に流下させることを目標とする。

あわせて、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過した洪水に対しても被害を最小限に止めるため、河川情報システムを十分活用した防災情報の提供等のソフト対策の充実に努める。

### 2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用及び流水の正常な機能の保全に関しては、住用川水系においては、これまで大規模な渇水被害は生じていないが、発電用水などに利用されていることから、今後は河川流量等の把握に努める。

河川環境の整備と保全に関しては、治水・利水面との調和を図り、在来動植物の生息・生育・繁殖環境の保全や外来生物の早期発見・防除など流域の生態系の保全・管理に努める。また、人々に潤いを与える良好な河川景観を保全するなど、地域住民が河川に興味を持ち河川に親しみを感じるような川づくりを進めるとともに、地域と一体となった河川環境整備のための協力体制の構築に努める。

水質については、河川の利用状況、沿川地域の水利用状況、現状の環境を考慮し、関係機関や地域住民との連携を図りながら水質の保全に努める。

### 3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、洪水等による災害発生の防止または軽減、水利用及び流水の正常な機能の保全、河川環境の整備と保全の観点から、地域特性を踏まえ適切に行っていくものとする。

また、堤防・樋門等の河川管理施設の機能を確保するため、巡視点検、維持補修などを適切に行う。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量については、河川の規模、流域内の資産・人口などを踏まえ、県内河川とのバランスを考慮して、年超過確率 1/30 の規模の洪水を検討した結果、基準地点の稲袋橋いぶくろはしにおいて  $690\text{m}^3/\text{s}$  とする。

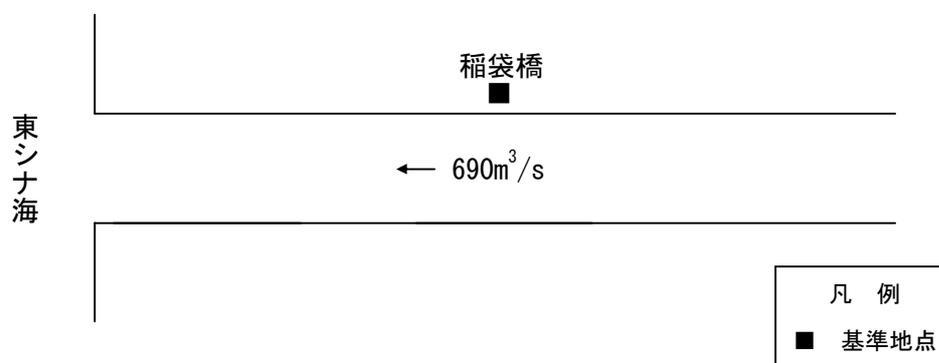
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
住用川	稲袋橋	690	0	690

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

住用川における計画高水流量は、稲袋橋地点において  $690\text{m}^3/\text{s}$  とする。



住用川計画高水流量図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの 距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
住用川	稲袋橋	1.85	5.82	55	基準地点

(注) T.P : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

住用川においては、発電用水としての許可水利がある。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、流況を把握するとともに、河川の適正な利用や、動植物の保護及び流水の清潔の保持等に必要な流量について、今後調査検討を行うものとする。

(参考図) 住用川水系概要図

位置図

